

行成と実方（説話集）

十訓抄

尊補（作者→行成） 過去・連用

大納言 行成 卿、 いまだ 殿上人 にて おはし ける とき、 実方 の 中将、

大納言 藤原行成卿が、 まだ 殿上人 で いらっしゃつたとき、 藤原実方の 中将が

形動・ナリ・連体

係助・疑問

過原推・けむ・連体（遊び）

いかなる 憤り か あり けん、 殿上 に 参り合ひ て、

どのような 憤り があつたのだろうか、 殿上の間に参上して、 行成と出くわし、

言ふ こと も なく、

言葉を発する ことも なく、

「冠 取り て 参れ。」 とて、 冠 して、

行成 少し も 騒が ず して、 主殿司 を 召し て、

行成 少し も 騒が ず して、 主殿司 を 召し て、

行成 少し も 騒が ず して、 主殿司 を 召し て、

行成 少し も 騒が ず して、 主殿司 を 召し て、

行成 少し も 騒が ず して、 主殿司 を 召し て、

行成 少し も 騒が ず して、 主殿司 を 召し て、

行成 少し も 騒が ず して、 主殿司 を 召し て、

行成 少し も 騒が ず して、 主殿司 を 召し て、

行成 少し も 騒が ず して、 主殿司 を 召し て、

行成 少し も 騒が ず して、 主殿司 を 召し て、

行成 少し も 騒が ず して、 主殿司 を 召し て、

行成 少し も 騒が ず して、 主殿司 を 召し て、

たちまちに かう ほど の 亂罰 に

「いかなる こと にて 候ふ や らん。

あづかるべきことこそ、おぼえ侍らね。

そのゆゑを承りて、のちのことによ侍るべからん」と、

ことうるはしく言はれけり。

実方はしらけて、逃げにけり。

折しも、小部より主上御覽じて、

「行成はいみじき者なり。

かくおとなしき心あらんとこそ思はざりしか。」とて、

そのたび藏人頭空きけるに、多くの人を越えて、なきれにけり。

実方をば、中将を召して、「歌枕見て参れ。」とて、

陸奥守になしでぞつかはされける。

やがてかしこにて失せにけり。

実方、藏人頭にならでやみにけるを恨みて、

執とまりて、雀になりて、

殿上の小台盤にみて、台盤を食ひけるよし、人言ひけり。

一人は忍に耐へざるによりて前途を失ひ、

一人は忍を信ずるによりて褒美にあへるたとへなり。